

安全「見える化」とっとり運動

鳥取労働局

「見える化」とは、視覚的に捉えられない職場に潜む危険などの情報を可視化することです。

鳥取労働局では、可視化した危険情報等を活用して行う効果的な安全活動を鳥取県内で広く展開することを目的として「安全「見える化」とっとり運動」を呼びかけています。

労働災害の防止・死亡災害の撲滅に向けて、県内各事業場が災害防止活動の「見える化」に取り組むことで、すべての労働者が安全に安心して働くことができる職場を構築しましょう。

また、経営トップや労働者一人ひとりの安全に対する意識や危険感受性を高め、本運動をリスクアセスメントの普及促進の足がかりとし、「誰もが安心して健康に働くことができる社会」を実現しましょう。

「安全「見える化」とっとり運動」の実施事項

次の事項の実施を、各関係者、各事業者、働く方々をお願いしています。

- ・事業者、安全衛生担当者、働く方々の「安全宣言」の実施
- ・職場環境に潜む危険の「見える化」の推進
- ・作業方法に潜む危険有害性情報の「見える化」の推進
- ・安全衛生管理情報の「見える化」の推進
- ・定期的な職場点検、巡視の実施
- ・安全衛生委員会等における「見える化」運動の推進のための協議



危険の「見える化」

機械の動作部分は「はさまれ」たり「巻き込まれ」たりする危険箇所です。そこに危険が存在することは知ってはいても目には見えません。作業者の不注意による事故を防止するために危険な場所に『危険』と表示をして危険を「見える化」しましょう。通路では転倒災害が多く発生します。通路には「つまづく」、「すべる」などたくさんの危険が潜んでいます。これらの箇所に、あらかじめ「スベル!! 危険」などの表示を行って『危険の「見える化」』をしましょう。

安全意識の「見える化」

たとえば、社長の「安全決意」、日頃の「安全指示」、安全衛生管理者の方々等の「活動宣言」、日々の朝礼等での各作業員の「一日の目標」や「遵守事項の約束」などは、何かのかたちで目に見えるようにしておけば、本人にとっても周りの部下や仲間にとっても災害防止に大いに役立つことが期待できます。

関係者の決意、指示、約束などを「見える化」しましょう。

安全活動の「見える化」

工場や建設現場の安全活動目標、各事業所の毎月の安全目標、毎日の安全活動のルールやスケジュールなど、いろいろな取組を、いろいろな担当者が行っています。これらの内容を関係者全員が共有しておくことは、災害防止に強力な効果を発揮します。

いつでも、誰でも、安全活動の内容や目標、担当者などが分かるように「見える化」を行いましょ

その他の「見える化」

「見える化」の取組は、災害防止のために必要な要素を幅広く対象として捉えるように拡大していくことも大切です。

また、安全衛生のみならず、企業経営等に係わる効果を発揮できる取組に発展させることも出来るものと思います。

各事業所で関係者が、創意工夫を加えた「見える化」を展開してください。

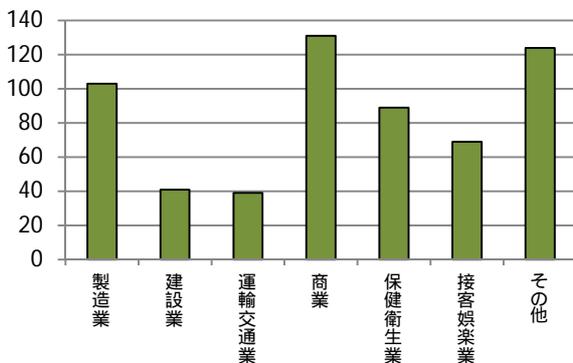
転倒災害の防止は、危険の「見える化」で

転倒災害は作業場所の「危険」に作業者の「不注意」が会って発生しています。対策には、不注意を防止するため「危険」を目に見えるように掲示することが有効です。

「転倒災害」はどの業種でも同じように発生する災害

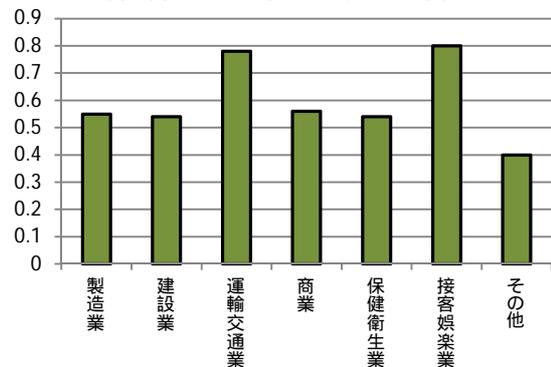
事故の型別による比較をすると「転倒」災害が最も多く、次いで「墜落・転落」とります。また、「転倒」災害は「商業」等のサービス業で被災者数が多くなっています。これは、下のグラフで把握することが出来ます。

過去5年間の転倒による被災者数



ところで、サービス業で働く方々は「転倒」による危険性が高いのでしょうか。過去5年間の被災者数について、各業種で働く労働者1,000人当たりの1年間の被災者数を計算すると下のグラフになります。その結果、「転倒」災害はどの業種でも同じように発生することが分かります。

労働者1000人当たりの発生頻度



転倒災害を防ぐには？

転倒災害の発生場所は普段使用する「通路」等です。通常は通路で転倒することは少ないのですが、急いでいて走ったり、荷物を抱えていたりして、滑ったり、つまずいたりして「転倒」します。

このように、転倒災害は通常は危険を感じることの少ない場所で、危険を意識しない労働者の行動により発生します。転倒災害を防止するためには、労働者が危険性を認識して行動することが欠かせません。いつも使用する通路といえども危険が潜んでいます。

「狭い」、「段差がある」、「傾斜がある」、「つまずく」、「見通しがきかない」、「凍結している」などの危険要因は「注意を喚起する掲示」を行って、「危険に見える形で表す」取組も効果的です。

鳥取労働局では、ホームページで各事業場の取組事例、活用いただける情報、運動の実施報告などをご覧いただけるようにしています。

鳥取労働局ホームページ

<http://tottori-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/>



鳥取労働局、各労働基準監督署では、各事業所の「見える化」の参考となる情報を収集しています。

【危険箇所の「見える化」で情報共有】

注意力散漫を少しでも防止するために、職場にある転倒リスクを適切に表示する取組が有効です。すなわち、職場の中で転倒災害が多発している箇所には、ステッカーを貼り付けるなどして、作業員全員で情報を共有し、安全意識を高めましょう。

厚生労働省では、「STOP！ 転倒災害プロジェクト2015」を開始しています。

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/tentou1501.html>

『安全「見える化」とっとり運動』の協賛者

一般社団法人鳥取県労働基準協会及び東部・西部・中部支部

鳥取県木造家屋等低層住宅建築工事安全対策委員会

林業・木材製造業労働災害防止協会鳥取県支部

一般社団法人日本ボイラ協会鳥取支部

独立行政法人労働者健康福祉機構鳥取産業保健総合支援センター

建設業労働災害防止協会鳥取県支部

陸上貨物運送事業労働災害防止協会鳥取県支部

一般社団法人鳥取県採石協会

公益社団法人建設荷役車両安全技術協会鳥取県支部

一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会鳥取支部